

# 平成19年度 日本保険学会大会報告 『格差社会と年金問題』

2007.10.28(日)

広島経済大学 佐々木一郎

ic-sasa@hue.ac.jp

1

---

## 構成

1. 本報告の目的
2. 年金未加入・未納と老後の経済格差
3. 先行研究と本報告の位置づけ
4. データ
5. 分析
6. 今後の研究課題

2

## 1. 本報告の目的

(報告目的)

親の年金意識の格差が、子の年金未加入・  
未納決定に及ぼす影響を分析すること

3

---

(問題意識)

・親の年金意識の格差



子の年金加入・納付率の格差



無年金による子世代の老後の経済格差拡大？

4

## 2. 年金未加入・未納と老後の経済格差

### (1)20代の年金未納率

20～24歳：25.9%

25～29歳：37.2%

\* 参考

50～54歳：18.9%

55～59歳：13.9%

5

---

### (2)無年金と経済格差

#### ①国民年金の資産価値(試算)

→2100万円

(1985年生まれの20歳、現在価値ベース、厚生労働省)

#### ②年金未加入・未納

→将来の低給付・無年金

→老後の経済格差拡大を助長する可能性

6

### 3. 先行研究と本報告の位置づけ

#### (1)先行研究が注目した未加入・未納理由

- ①低収入
- ②短命予想
- ③年金不信

→〈先行研究の問題点〉

未加入・未納者をとりまく周囲の影響を考慮していない

7

---

#### (2)本報告の位置づけ

##### ①周囲(親)の影響への着目

- ・未加入・未納は本人だけで決めているのか？
- ・親の年金意識は、子に影響しないのか？

\* 年金受給権の獲得機会

→親の年金意識の格差から制約を受けることはないのか？

8

## ②親が影響する根拠

- ・低年齢者ほど低い年金周知度
- ・意思決定は身近な人から影響されやすい  
(保険・年金加入の非合理性)
- ・親から子への影響力の高まり  
(教育、経済力、職業の面など)

9

---

## 4. データ

### (1)調査概要

- ・調査実施 報告者
- ・調査期間 2006年7月
- ・調査対象 中国、四国地方の大学生
- ・使用サンプル数 220
- ・サンプルの採用基準

10

## (2)主な質問項目

### ～子からみた親の年金意識～

- ・親の年金納付意識の高さ
- ・親から子への加入・納付の推奨
- ・年金に関する親との会話
- ・年金への親の関心の高さ

11

## 5. 分析

### (1)クロス集計

\* 親の年金意識 × 国民年金未加入率(任意加入を想定)

		未加入率
親の 年金納付意識	高い	26.4%
	低い	78.9%
親から子への 加入・納付の推奨	推奨している	19.4%
	推奨していない	39.4%
年金に関する 親との会話	する	25.5%
	しない	32.4%
年金への 親の関心	高い	29.6%
	低い	34.5%

12

## (2)ロジット分析

### ①親の年金意識の格差が及ぼす影響の分析

- ・被説明変数：任意加入を想定した場合の、  
　　国民年金への子の加入意思
- ・説明変数　：親の年金意識に関する要因など

13

### ②主な分析結果

		国民年金未加入率 への影響
親の年金納付 意識	高い	マイナス (有意)
親による年金加 入・納付の推奨	推奨している	マイナス (有意ではない)

14

### ③結論

- ・親の年金意識(低い)  
→子の年金未加入率(高い)
- ・年金意識は親子間で継承される可能性が高い

15

---

### ④年金政策への示唆

- (a)未加入・未納意識の継承  
→無年金が親から子、孫へ連鎖する可能性  
(年金問題は格差問題とも深く関係)
- (b)年金・金融教育の強化の必要性  
→親以外の第3者(国や学校など)による  
媒介が重要

16

## 6. 今後の研究課題

- ・「親の所得水準」による影響を分析すること
- ・親の所得(低い)  
→子の年金未加入・未納率(高い)？

17

---

## 参考文献

- 岩本康志,2000,「ライフサイクルから見た不平等度」,国立社会保障・人口問題研究  
所編『家族・世帯の変容と生活保障機能』,東京大学出版会,pp.75-94.
- 大竹文雄,2005,『日本の不平等』,日本経済新聞社.
- 厚生労働省, 2004,『厚生年金・国民年金 平成16年財政再計算結果(報告書)』.
- 鈴木亘・周燕飛,2006,「コホート効果を考慮した国民年金未加入者の経済分析」『季  
刊社会保障研究』,第41巻第4号,pp.385-395.
- 高尾厚,1998,『保険とオプションーデリバティブの一原型』,千倉書房.
- 田村祐一郎,2006,『掛け捨て嫌いの保険思想—文化と保険—』,千倉書房.
- 中浜隆,2006,『アメリカの民間医療保険』,日本経済評論社.
- Thaler, R. and Benartzi, S., 2004, "Save More Tomorrow: Using Behavioral  
Economics to Increase Employee Saving," Journal of Political  
Economy, Vol.112, No.1, pp.S164-S187.

18